

All About SAFETY

安全をいかに創造するか

「安全である」ということは、すべての業界において共通の課題といえるでしょう。特に、旅客や貨物などの輸送サービスを担う業界にはより高い安全性を確保することが求められています。「All About Safety」は、そうした業界や企業がどのように安全を追求しているか、その考え方や具体的な取り組みを紹介し、皆様の安全活動の参考としていただくための連載記事です。



センコーグループ全体では約 5000 台の車両が物流の現場で稼働している

センコーグループホールディングス(株)の取り組み 研修施設と現場での訓練の継続によって 「安全」という物流品質を確保する

ドライバーへの教育を支える
研修施設「クレフィール湖東」

センコーグループホールディングス(株)(本社：東京都江東区)は一昨年、創業 100 周年を迎えた総合物流企業で、そのグループ会社は 130 社以上にのぼる。同社は「安全」がすべてに優先するという理念のもと、現場の最前線で活躍するドライバーへの安全運転教育に力を入れてきた。それを支えているのが、1996 年、滋賀県東近江市(当時の湖東町)に開設した研修施設「クレフィール湖東」である。現在の代表取締役社長である福田泰久さんが「物流技術を身につけ、現場力を向上させる必要がある」と、当時の社長に提案して開設に至った。開設時には、鈴鹿サーキット交通教育センターがインストラクターの育成に協力している。クレフィール湖東での訓練によってドライバーやオペレーター(倉庫内でフォークリフトを操作するスタッフ)の技術や能力、そこから生み出される品質と生産性が格段に向上。営業部門が自信を持って商品やサービスを顧客に提案できるようになり、それがグループ全体の事業拡大につながったという。

定期的に繰り返し行われる
ドライバーへの安全運転研修

クレフィール湖東のインストラクター(現在 8 名)は全国トラックドライバー・コンテスト(主催：(公社)全日本トラック協会)の上位入賞経験者など、センコーグループのトップドライバーが務めている。センコーグループ各社のドライバーを対象にした安全運転教育は新人ドライバー合宿訓練、基礎ドライバー訓練、プロドライバー訓練(またはトレーラドライバー訓練)の 3 種類で年間約 500 名が受講する。入社すると、新人ドライバー合宿訓練が基礎ドライバー訓練を受講。そして 5 年後には、プロドライバー訓練を受講し、以降はこれを繰り返す。つまり、6 年に 1 度のサイクルで安全運転教育を受けるのである。クレフィール湖東 研修事業部長 兼 交通安全研修所所長 仁井原好一さんは、すべての研修の目的は「安全運転の基本に戻る」「人とクルマの限界を知る」「危険に対する感受性を高める」の 3 つだと話す。「教習所で学んだ基礎・基本の重要性を思い出してもらうことが大切です。そして、公道ではできない危険を体験することで、安全意識の向上と変革を促します。例えば、基本走行という項目では、トラックに乗って、目いっぱいアクセル

を踏んで急ハンドルをきるという体験してもらいます。この時、運転姿勢の違いによって、情報のとりやすさや操作のしやすさの変化を感じてもらうことで、正しい運転姿勢の重要性を伝えています。また、大型トラックの場合、後輪から後ろの荷台部分が大きく突き出しているため、この部分が右左折の際に曲がる方向とは逆側にふくらし、周囲のクルマや建造物に接触することがあります。これを防ぐために、研修では実際にどのくらいふくらむのかを示すことで、自分のイメージとのズレを修正してもらいます。

このほか、体験を通じて「こだわり運転 3・5・5」の重要性なども学んでもらう。これはセンコーグループの追突事故防止策の総称で、「追従中の前車との車間距離(車間時間) 3 秒以上、停車時の前車との安全空間 5 m 以上、停車時の停止線とフロントバンパーの距離 5cm 以内」を意味する。プロドライバー訓練では同社の車両に搭載しているドライブレコーダーからの収集映像をもとに、ヒヤリハット場面を研修コース上で再現、走行して、事故防止のために注意すべきポイントは何か気づいてもらう。「コース内をただ走行するのではなく、インストラクターの運転するトラックが後ろからあおるなど、現実の交通状況に近づける工夫もしています」。

トレーナーによる「地区訓練」で
各現場の安全意識の向上を図る

センコーグループの安全運転教育は、クレフィール湖東での訓練だけではなく、各グループ会社の支店・営業所などでも「地区訓練」を年 1 回以上実施している。トレーナーと呼ばれる現場のリーダーが、支店・営業所のドライバーやオペレーターを指導するのだ。「訓練を受けても、身につけたことを現場で継続できなければ意味がありません。トレーナーはセンコーグループ全体の現場力の強化と安全を推進するキーパーソンといえるでしょう」と仁井原さんは説明する。このトレーナーの育成もクレフィール湖東は担っている。「私たちは安全運転を含めた物流現場における作業の理想形を『センコー流 指導マニュアル 虎の巻』としてまとめました。運転はもちろん、挨拶や服装、言葉づかいなどまで細かく規定しています。トレーナー訓練では『センコー流 指導マニュアル 虎の巻』の内容をすべて身につけ、現場で指導ができるようになってもらいます」。



クレフィール湖東 研修事業部長 兼 交通安全研修所所長 仁井原好一さん



クレフィール湖東は 27 万 m² という広大な敷地に研修施設や宿泊施設、こども交通公園などを備える。滋賀県公安委員会から、2016 年には大型自動車免許、2017 年には索引免許の「指定教習所」に指定された

物流業界以外の企業・団体にも
安全運転研修を拡大

センコーグループでは年 1 回、クレフィール湖東で「技能コンテスト」を開催している。全国 12 ブロックの予選を通過したドライバー・オペレーター、海外で輸送を担当している外国人ドライバー・オペレーターが参加し、安全運転技術などを競うのである。こうした様々な取り組みによって、交通事故件数も減少傾向にあるという。「ベテランドライバーが増えているので、インストラクターが問いかけ、受講者から答えを引き出すというコーチング技法によるプログラムづくりに取り組んでいるところです。最終的には既存の各訓練に取り入れていきたいと考えています」と仁井原さんは今後を見据える。さらに、クレフィール湖東では自社のドライバー育成のノウハウを活用し、社外の企業・団体向けにも安全運転研修を開催している。近年は、トラックよりもバスの乗務員に対する研修が増えているようだ。トラック同様、バス乗務員への研修内容もクレフィール湖東が独自に考案している。物流業界をリードするセンコーグループの安全運転教育の取り組みは、業界全体の安全意識の向上にも寄与していくことだろう。



独自の厳格な行動・技能規範がまとめられた「センコー流 指導マニュアル 虎の巻」



センコーグループのドライバーへの訓練風景



フォークリフトを操作するオペレーターへの訓練も実施